

令和4年度 がん教育総合支援事業 「がん教育外部講師派遣」 報告書

学校等名 長崎市立長崎中学校

担当者名 長門 彩

電 話 095-822-3604

F A X 095-822-1406

実施日	令和4年11月28日(月) 12:30 ~ 15:30				
場 所	長崎市立長崎中学校 体育館				
講座名	講演会 「がん教育講演会 ~いのちの授業~」				
講 師	みさかえの園あゆみの家 副施設長 岡田 雅彦 氏 (がん専門医)				
近隣校への案内	なし				
参加者	生徒	学校職員	保護者	他校職員等	その他
	全学年 (171)人	(14)人	()人	(2)人	()人 ----- (187)人
テーマと内容	テーマ「自他の健康と命の大切さ」 ・がんとはどのような病気かを知る ・がんになった人の気持ちについて考える ・いのちを大事にするとはどういうことか考える				

＜当日の様子＞ * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。



＜講師からの指導や助言・成果＞

- ・がんとは誰でもなりうる病気だが、生活習慣で予防できることもある。
- ・がんは小さいうちに発見すると治りやすいため、がん検診を受けることが大切である。
- ・自分の生きる意味は、リダンダンシーがきかないところにある。
- ・「迷惑」「自立」という言葉の意味を深く考える。
- ・読書で自分にできることは何か想像力を養い、行動できる人になろう。

○講演会前後のアンケートを比較すると、がんの基本的な知識だけではなく、より身近にがんという病気を感じており、今後健康に過ごしていきたい、がん検診を受けたいなどがんを予防するための今後の行動まで考えることができていた。

＜今後の取組及び課題＞ * 今後のがん教育の充実に向けての活用等

講演の中で、生徒たちはがん検診を受ける重要性についてとても印象的だったよう。また、女子生徒にとっては子宮頸がんワクチンの接種の対象年齢とも重なるため、今後も早期発見や予防について校内でも指導していきたい。

さらに、今回の講演会では、「リダンダンシー」という新たな視点で自分の大切さを考えることができた。講演会前後のアンケートで「自分の大切さ」や「周囲の役にたっているか」の質問項目では肯定的変化がみられた。しかし、「周囲の人たちの大切さ」や「自分の命を大切さにできているか」に関しては、あまり変化が見られなかったため、今後も自他の命の大切さについて指導していく。